

グローバル人材育成事業報告書

| | | | | | | |
|-----------|---------------|--------|------|----------|----|----|
| 参加したプログラム | ものづくり等の世界大会参加 | | 訪問国 | リトアニア共和国 | | |
| 校内発表会の有無 | 無 | (有の場合) | 日にち | (対象) | | |
| 学校名 | 県立科学技術高等学校 | 氏名 | 杉原伸弥 | | 学年 | 3年 |

1 目的・応募理由

私は、部活動で ARDF 競技という野山に隠された電波発信源を探索する競技に取り組みました。高校2年の時に、第32回2024全日本ARDF競技大会に参加し、3.5MHz帯クラシック競技で優勝、144MHz帯クラシック競技で第3位となりました。この結果から第22回IARU ARDF世界選手権大会の代表選手として推薦され出場が決まりました。高校時代に日本代表として世界各国の選手たちと競い合えることや、異国の文化や言語に触れることは自分に取ってかけがえのない経験になると思い応募しました。

2 研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

大会前日に行われたトレーニングでは、緑豊かな森の中で世界各国から集まった選手たちが、国際大会を前に最終調整を行っていました。私も機材の動作確認や周波数の確認を行いながら、体を動かして大会の準備をしました。

開会式では、地元リトアニア共和国の伝統的な歌やダンスが披露され、参加者たちはその文化に触れながら交流を深めていました。民族衣装に身を包んだ人たちの姿や、各国代表との記念撮影も行われ、和やかで華やかな雰囲気に包まれていました。私もダンスに参加し他国の選手の中に溶け込み交流を図ることができました。



本競技は、森など自然の中に隠された複数の電波発信源を、地図とコンパス、そして専用の受信機を使って探索するというものです。電波の発信源は1分間ごとに切り替わるようになっており、競技者はその方向や電波の強さを手掛かりにして位置を推測し、走って探索します。走力や地図を読む力が必要な上に、体力、集中力、判断力のすべてが試される競技です。

リトアニア共和国の森は、日本の山や森とはまったく異なる雰囲気を持っており、まさに「北欧の森」といった印象でした。高低差があまりなく、下草も低いため視界が広く、地図を確認しながら直線的に移動しやすい環境でしたが、地形の読み方やルート選択の難しさを感じました。一方、海外の選手たちの走り方には強い衝撃を受けました。競技中、同じ方向に進むチェコ共和国の選手がいたのですが、沼があろうと、草が生い茂っていようと、迷わず直線的に突き進んでいく姿は圧巻でした。改めて世界のレベルの高さを感じさせられました。



閉会式終了後、各国の選手たちが一堂に会する交流会が開催され、会場はとても賑やかでした。国や言葉の壁を越えて、互いの健闘を称え合う温かい雰囲気に包まれていました。中でも特に印象的だったのが、ドイツ人の女性との交流です。とてもエネルギッシュでフレンドリーな方で、私に「ユニフォームを交換してほしい！」と熱心に話しかけてくださいました。自分のユニフォームが異国の地でこんなに喜ばれることに驚きつつ、同時に嬉しさと誇らしさを感じました。互いのユニフォームを交換した際は、国境も言語も世代も超えて繋がれるのだと実感することが出来ました。また、会場では世界各国から持ち寄ったお土産を交換する場面もありました。ちょっとした贈り物が会話のきっかけとなり、言葉の壁を越えて一気に距離が縮まるのを感じました。



3 感想等

今回の世界大会で4競技のすべてで記録を残せたことは日頃の練習の成果であったと思っています。しかし目標としていた表彰台には遠く及びませんでした。日本で行われた大会で結果を出すことが出来ていたのもとても悔しい思いをしました。取り組んだ練習やトレーニングがまだまだ世界では通用しないことが分かりました。今後は地図や受信機の使い方をこれまで以上に熟知し、知らない森の中でも草木のものともしないで突き進むことができるメンタル面を鍛えていこうと思いました。場所や気象など同じ条件で行われることがないこの競技は、毎回違う課題が出てくるためとても面白いと感じています。これからも ARDF 競技を続けていき、次の全日本大会で、代表選手に選ばれるよう頑張りたいと考えています。ARDF という競技、また無線を通じて、私はたくさんの経験をする事ができました。自然の中で電波を頼りに走る難しさや楽しさ、異なる環境での新しい発見、さらには世界の選手たちとの出会いや交流、その一つひとつが自分にとって大きな学びであり、かけがえのない財産となりました。世界大会に出場できるとは思いもしませんでした。その機会を通じて得られた経験をこれからの人生で生かしていきたいです。



グローバル人材育成事業報告書

| | | | | | |
|-----------|---------------|--------|-------|----------|----|
| 参加したプログラム | ものづくり等の世界大会参加 | | 訪問国 | リトアニア共和国 | |
| 校内発表会の有無 | 無 | (有の場合) | 日にち | (対象) | |
| 学校名 | 県立科学技術高等学校 | 氏名 | 西島 大勝 | 学年 | 3年 |

1 目的・応募理由

ARDFとは、野山に設置された電波の発信源（TX）を受信機やコンパス、地図を用いて、制限時間内に探索する競技です。走力や体力はもちろん、地図から地形を読み取る力や、電波の強弱を頼りにして探索する方向を判断する力も求められます。

私は群馬県高崎市で行われました、2024 全日本 ARDF 競技大会に出場し、144MHz 帯クラシック競技の M19（19 歳以下の男子）部門で優勝することができました。そして第 22 回 IARU ARDF 世界選手権大会に日本代表選手として推薦され、出場が決まりました。

日本から遠く離れた国に日本代表として参加することは、一人の選手として成果を出し、日本の勝利に貢献するという責任感があります。また、異なる文化や価値観の中で日本の魅力を伝える重要な役割を担いながら、日常生活ではできない貴重な経験になると考えました。私の力を最大限に発揮するために、競技に集中できる環境が不可欠であると考え、今回応募させていただきました。

2 研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

- 16 日（土）トレーニングキャンプ・
オープニングセレモニー
- 17 日（日）3.5MHz 帯クラシック競技
- 18 日（月）スプリント競技
- 19 日（火）休息日
- 20 日（水）Fox-O 競技
- 21 日（木）144MHz 帯クラシック競技・
閉会式・交流会



トレーニングキャンプでは、緑地広場で全種目の練習をしました。持参した受信機材が正常に動作するのか、実際に電波を受信して確認しました。電波発信機から 10m、20m、30m、40m、50m と異なる距離から電波を受信し、どの距離でどのような受信音が聞こえるか、再確認しました。受信音から想定できる、発信源と自身の距離感が、日本と同じであることを知り、機材が普段通りの感覚で使えると感じました。

3.5MHz 帯・144MHz 帯クラシック競技は、5 つの電波発信源を探索します。発信源の距離はスタート位置から 750m 以上、各発信源から 400m 以上離れていて、地図と受信機を頼りに、どのような道筋で探索するかを、競技を行いながら考えます。Fox-O 競技は、10 個の電波発信源を探索します。地図に描かれた地点まで移動することで、微弱な電波が受信でき、探索することができます。事前に探索ルートを考え、地図やコンパスを用いて正確に目的地に到達する力と、

走力と体力が求められます。スプリント競技は、10個の電波発信源を探索する競技です。一回の電波送信時間が12秒と他の競技に比べて短いのが特徴です。その短時間の中で、探索する方向と距離感を想定するのが私にとって難しく、苦手意識があります。私が競技の中で特に意識したことは、私が出せる最大限の移動スピードを保つということです。蜘蛛の巣や倒木があっても迂回せずに、直線的に進みながら探索しました。その結果、全ての電波発信源を探索することができました。さらに探索時間が30分を切る、29分17秒でゴールし、私にとってはこれまでの最高の成果を出すことができました。しかし、1位の選手は16分58秒でゴールしていました。より早くゴールするには何が必要なのか、スプリント競技の技術向上について考えるきっかけになりました。

・結果

3.5MHz 帯クラシック競技 14位

スプリント競技 12位

Fox-O競技 17位

144MHz 帯クラシック競技 順位なし



3 感想

リトアニア共和国は日本とは気候、食文化、言語、歴史など、様々なことが全く異なりました。特に印象に残っているのは、食文化の違いです。リトアニア共和国では、パンや茹でたポテトが主食でした。日常的に米を食べている私にとって、毎食パンというのは新鮮であり、驚きでした。また、飲料水も硬水が普通でした。普段軟水を飲んでいる私にとって、最初は硬水に慣れず、腹痛になりましたが、実際に異文化に触れるという体験をできました。



事前学習でリトアニア共和国について調べたとき、現地の人達は警戒心が強く、冷たく振る舞う人が多いと知りました。しかし、現地のスーパーで水を購入した際、店員の方がセルフレジの使い方を丁寧に教えてくださり、さらに割引チケットのようなものまで渡してくれました。10日間程の滞在でしたが、リトアニア人に対する印象が変わりました。そして、先入観で物事を決めつけるべきではないと感じました。

最終日に他国の選手たちと交流する機会があり、同年代で優勝をしたチェコ共和国の選手たちとの会話を楽しみました。彼らはこの先も ARDF 競技を続けると話していて、いつか世界大会でまた会おうという話をしました。また、ドイツの選手からは国旗のシールを頂きました。それに対し私は、アニメのキャラクターが描かれたアイマスクや日本の和菓子の代表である羊羹を渡しました。このような経験を通して、英語でのコミュニケーション力の成長につながったと考えています。今回の世界大会では、入賞することはできませんでしたが、選手や現地の人たちとの交流を通して貴重な経験をすることができました。世界の舞台上で挑戦する機会をいただけたことに深く感謝し、これからも、ARDF 競技に取り組んでいきたいと考えています。

グローバル人材育成事業報告書

| | | | | | |
|-----------|-------------------------------------------|--------|-------|----------|----|
| 参加したプログラム | ものづくり等の世界大会参加 | | 訪問国 | リトアニア共和国 | |
| 校内発表会の有無 | 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | (有の場合) | 日にち | (対象) | |
| 学校名 | 県立科学技術高等学校 | 氏名 | 森島 瑚葉 | 学年 | 2年 |

1 目的・応募理由

私は、高校入学後はこれまでと違った部活動で活動したいと考えていたところ、ARDF という競技に出会いました。ARDF 競技を始めるにあたって世界大会出場を目標に練習をしてきました。県大会や全国大会などに出場し、練習の成果が出て競技に対して少しずつ自信を持つようになりました。そして、一年生の時に開催された第 32 回 2024 全日本 ARDF 競技大会の 3.5MHz 帯クラシック競技で第 2 位、144MHz 帯クラシック競技で第 3 位という結果を残すことができ、第 22 回 IARU ARDF 世界選手権大会に推薦され出場が決まりました。これまでの練習の成果が世界大会でどの程度通用するのかを試したいと思い応募しました。

2 研修内容等（語学研修等の授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリーなど）

8月16日 トレーニング・開会式

8月17日 3.5MHz 帯クラシック競技

8月18日 FOX 0 競技

8月19日 休息日

8月20日 スプリント競技

8月21日 144MHz 帯クラシック競技



初日のトレーニングでは4競技すべてが練習できるように設定されていました。私は受信機が正常に動作しているか、また国内で使用しているときと同様な使い方ができるかを確認しました。特に苦手意識のある 144MHz 帯クラシック競技で使用する受信機については重点的に動作確認をしました。受信機の動作確認後は、高低差による音の聞こえ方の違いに気を付けながら4競技の受信練習をしました。

大会の開会式では、他国の選手達とコミュニケーションが取れるかととても緊張していましたが、年齢差や言語の違いなど関係なく、会話や写真撮影をして交流を図りました。

3.5MHz 帯クラシック競技は、制限時間 150 分の競技時間でした。当日は気温が 20℃以下となり、スタート時刻まで寒さを上着一枚でしのぐのが大変でした。8月の暑い日本の気候とは全く異なっていると、実感しました。競技中は、国内の大会同様に地図とコンパスを用いて野山に進んでみたところ、地図中の自分の位置を見失ってしまいました。草木が生い茂っている場所や、川を渡る際に方位を見誤ったのが原因だったと思います。場所を見失った私は電波発信源の音を聞いて、電波発信源に直線的に行くことを選択し、地図をあまり見ることなく探索することにしました。草木が生い茂る地点もあり直線的に移動出来ないところもあり大変でしたが、ゴールまでたどり着くことができたので安心しました。

FOX-0 競技は、苦手意識がありました。地図中に示された円の付近まで行かないと電波発信源

の音が聞こえないため、地図とコンパスを使いながら自分の現在地を確認し移動しました。私はスタートからできるだけわかりやすい道を使い移動しましたが、自分が思っているところよりも現在地がずれていることが度々ありました。その際は、判別できる元の位置まで戻り、ここからはできるだけ地図に書いてある判別しやすい道を進みました。国内大会よりも電波発信源を多く探索できたので嬉しかったです。

スプリント競技は得意分野だったのですべての電波発信源を取り、早く帰ってくるのが目標でした。しかし、競技が始まって電波発信源の音を聞いた瞬間、ヘッドホンから音が聞こえていないことに気づき、予備のイヤホンに変更するというアクシデントが起きました。練習不足で自分が思っていた探索時間よりも時間がかかってしまい、国内大会では感じたことのない悔しさを感じました。

144MHz 帯クラシック競技では、受信機とヘッドホンの接続に必要なコネクタがないことにスタート直前に気が付きました。リトアニア共和国のスタッフに助けを求めたところ、チェコ共和国の選手に助けられコネクタがついているヘッドホンを貸していただき、スタートに間に合うことができました。思わぬ場面で他国の選手の優しさを感じられて嬉しかったです。この競技での私の一番の失敗は、川を超える前に野山の中で現在地がわからなくなってしまったことです。スタート順が遅かったこともあり他の選手が一人もいなかったのもとても不安になりましたが、遠くで歓声が聞こえてきて無事ゴールにたどり着くことができました。



3 感想等

私はこの世界大会に向けて放課後や休日を使って地図読みや走力強化に取り組み、できるだけ本番に近い環境で練習し、少しずつ実力と経験値を上げていきました。

その成果として、すべての競技で制限時間内にゴールすることができました。その結果、144MHz 帯クラシック競技、3.5MHz 帯クラシック競技の2競技 W19 クラスで女子団体第3位に入賞することができました。世界大会という大舞台で表彰台に登れたことをとても誇りに思います。しかし、実際の競技では課題も多く残りました。練習では冷静に判断できていたことが、本番では焦りや緊張から判断を誤ってしまったことや、後半になると体力がなくなり走るスピードを維持することができなかったことが反省点です。ハプニングもたくさんありましたが人の温かさが感じられてとても良い経験になりました。

今回の大会を通して感じたのは、基礎体力の大切さと、どんな状況でも冷静に対応できる精神力です。また、自分の弱点と向き合うことができ良い経験になりました。

この経験を生かし、次の世界大会で個人の成績でメダルが取れることを目標に、コンパスと地図の使い方を再確認し、基礎体力の向上に努め、国内の大会で常に成績を残せるようにしたいです。

